

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000374		
法人名	医療法人社団 松島内科		
事業所名	グループホームみのり1Fユニット		
所在地	小樽市緑1丁目16番14号		
自己評価作成日	平成26年1月31日	評価結果市町村受理日	平成26年2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0172000374-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療機関であり、入居者様の状態に変化があれば適切で迅速な医療処置を行っている。
また概ね週に一度、主治医の往診や、定期的な検査等を行い、日常の状態を把握し情報の共有に努めている。
地域のボランティアによる囲碁、マッサージ等外部からの来訪もある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は小樽市内の閑静な住宅街に立地し、近くに商店街や病院等があり利便性が高い。建物は3階建てで1階と2階に2ユニットのグループホーム、3階は高齢者住宅となっている。施設内は広いリビングに大きな窓があり、採光が良く、明るく、温湿度も適切に保たれ、利用者が居心地良く過ごせる環境になっている。町内会に加入しており、地域との交流が盛んで、町内会の夏まつりや子供神輿の中継点で休憩場所になっており、子供たちと利用者との交流が行われている。また、地域との連携協力を深め、災害対策や運営推進会議への参加を熱心に促しており、今後大いに期待できる事業所である。災害対策では、年2回の防災訓練を消防署立会いの下、行われており、防災自己点検表や災害用備蓄品のチェックが行われている。運営母体である医療法人は、医療事業や介護事業を多く展開し、医療、介護サービスの充実をはかり、家族からの信頼も厚く、利用者が安心して過ごせる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、職員の目につく場所に掲示し、実践に努めている。	法人理念と事業所独自の理念を掲示し、またその事業所理念に向けた目標を掲げ、職員間で共有してケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア(囲碁・マッサージ)等決まった曜日で来訪があり日常的に支援している。また、薬の処方等近所の薬局で配達しており、地域の一員として交流できるように努めている。	町内会に加入し、夏まつりや子供神輿の中継点(休憩所)として子供たちと交流がある。また、囲碁やマッサージのボランティア訪問による日常的な支援などで地域に根ざした交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や避難訓練等地域の方々にご案内をし、来訪を促している。また、運営推進会議を通して研修等の内容報告等行なっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を開催して運営状況の報告、近隣住民や、町内会の方々からの意見を頂き、運営に活かすよう努めている。	定期的に運営推進会議を開催し、運営状況や活動報告等を行い、参加者より意見や要望を聞き入れ、ケアサービス向上に活かしている。議事録は家族へ送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のご案内や記録等を提出している。また、月に1度利用状況調査票を提出し可能な限り情報提供を行なっている。	毎月、利用者状況調査票を市介護保険課へ提出している。また、市同課による実地指導の下、意見交換やアドバイス等を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング・会議等を通し、入居者様のケアに関して禁止の対象となる具体的な行為について職員の意識を高めるように努めている。	身体拘束に関するマニュアルが整備されており、また定期的に、身体拘束に関する内部研修会を行い、職員間で共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	可能な限り虐待防止等の研修に職員が参加し、防止に努めるようにしている。また、事業所内にマニュアルを掲示し誰でも閲覧が可能となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、職員に周知するよう努めている。又、必要に応じて支援できる体制に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご家族様に直接内容を説明し不安や疑問等あるかを伺い、理解、納得してもらえるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情・相談・意見箱を設置し、運営に反映できるようにしている。	意見箱の設置や家族との来訪時での面談、電話でのやり取りで意見や要望を聞き、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なフロアミーティング・全体ミーティングを行ない提案等聞く機会を設け反映できるようにしている。	毎月、職員会議やフロアミーティングを行い、意見や提案等を聞き入れている。また、必要に応じて随時話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回各部署の代表者が集まり、職員の意見や、提案等職場の環境整理に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を促したり、定期的な内部研修を行なっている。情報の共有を図り全体のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会開催の研修や新年会等の行事に参加し同業者とのネットワーク作りや勉強会に参加し、サービスの質を向上させるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時、会話の中から本人の困っている事、不安な事、要望等を聞きとり可能な限り要望等に添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時、ご家族様の意向、要望等を聞きとり、可能な限り添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の必要としていることを見極め、スタッフ間で共有しサービス内容を検討し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんで頂いたり、買い物と一緒にいたり、レクを楽しんだり共に生活をしている雰囲気を作っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの要望、不安等の訴えを聞いて本人にとってより良い支援を行なえるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブに行った際、馴染みの場所を訪れたり、行きつけの美容院を利用したり、今まで使っていた家具などを使用してもらっている。	行きつけの美容院や馴染みのある場所へ出かけたりと、利用者と関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が出来ない入居者様にも同じ輪に入ってもらい、理解できない時等スタッフが介入し良い関係が出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもお見舞いに行ったり励まし等の声掛けしている。相談については、実例が無い為、その都度対応し支援に努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の状態や会話の中から体調や思いをくみ取り意向に添っている。家族の意向も取り入れ本人本位に努めている。	利用者一人ひとりとの会話や表情、行動等から思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から意見を聞き、ケアサービスに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や習慣を本人、家族から聞いたり、利用していたサービス担当者から聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること出来ない事を見極め把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや全体会議を通じて情報を共有し、より良い支援が出来るように意見を出し合い変更があった場合家族や本人に説明し現状に合った介護計画を作成している。	担当者が決まっており、本人や家族の意見や要望を聞き入れ、現状に即した介護計画を作成している。3ヶ月毎に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌にその日の出来事を記録し情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人に合ったニーズを考え本人や家族と相談しながら柔軟な対応が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や親族以外で日常的に外部との接触は多くないが散髪その他、囲碁やマッサージのボランティア、地域の薬局からの薬の配達等ある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を取り入れその都度かかりつけ医に相談し適切な医療を受けられるように努めている。	週1回、母体医療法人の医療機関からの往診、訪問看護があり、利用者の健康管理を行っている。また、利用者希望の医療機関へ受診等の支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の来訪時、又は、気付いた時に相談し情報共有することで適切な医療を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	可能な限りお見舞いに行き、安心して頂くよう努め、その際に病院関係者と情報交換や相談を行なう事で関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	より良い方針が持てるよう、日頃からご家族に細かく状態を報告し、主治医や看護師等とも相談しながら情報を共有出来るように取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方について、日頃より家族への説明や状況報告を行っている。重度化した場合は家族や医師等に相談し、医療機関と連携を取り合いながら、ケア支援を行っている。	重度化や終末期のあり方に向けた方針を書面にて作成し、早い段階から本人や家族へ説明し、同意書を取り交わすことが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し事故発生時に迅速に対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や防災自己点検等を行なっている。又、マニュアルを作成し、災害用備品のチェックをしている。	年2回避難訓練を消防署立会いの下に行っている。近隣住民に避難訓練の案内を配布し参加を促している。災害用備蓄品や防災自己点検表のチェックもされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応に配慮し、同性介助を希望されている場合は、出来る限りの対応を行なっている。	利用者一人一人に合ったケアサービスを心がけており、接遇面などに配慮し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の要望を伺い、その方に合った対応を心掛けて、自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、可能な限りその人に合った、ペースを大切に、希望に添った支援が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴などの後に化粧水を付ける習慣などを考慮し安全に行えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを伺いながらメニューに取り入れたり、月に1回程度出前等を行っている。出来る方にはおしぼりたたみを、お願いしている。	職員によるカロリー計算された食事メニューを提供し、利用者の健康支援を行っている。また、おしぼりたたみや食器拭きの手伝いを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた調理を行ない、食事介助や声掛けを工夫しバランスの摂れた食事や水分を摂取できるように支援している。また、水分量を把握するためチェック表を作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が一人一人に声掛けして口腔ケアを行なっている。毎日義歯は就寝前には必ず消毒し清潔に保てるよう支援している。また、ご本人で管理されている方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録によりここでの排泄パターンを把握し、トイレで排泄出来るように努めている。尿意のない方に対しては時間で誘導しトイレでの排泄を促している。	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握し、トイレ介助を行っている。さりげない声かけ等でトイレ誘導を行い、自立に向けて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに提供したり、乳酸菌飲料を提供する等を行なっている。又個々に応じた運動の働きかけをし予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日を決めているも、時間帯等ご本人の希望に沿って支援している。	入浴は週4回で、本人の体調や都合により翌日にしたり、足浴や清拭等を行っている。浴室清掃が行き届いて、清潔に保たれている。希望により同性介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールで傾眠されている場合は居室で休むか伺い、その都度支援している。また、入眠前に足浴やホットミルクを提供し安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルに保管して職員が把握できるようにしている。服薬時は飲み込むまで確認し、症状の変化がある場合は医師・看護師と連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的な行事や、ドライブ・囲碁・マッサージのボランティアの来訪等の支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに誘ったり、本人の希望により職員が買い物や通院に付き添う等支援している。また、ご家族様と、ご本人とで外出や通院に外出できるように支援している。	外出しづらい冬場でも利用者の希望により、職員が買い物やドライブ等の外出支援を行っている。外出行事も多く取り入れており、戸外へ出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じご本人でお金の管理をされている。また、ホーム内の自動販売機の使用や通院、買い物時に安全にお金を使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の使用は出来る。また、ご本人へご家族様からの電話があればその都度対応している。手紙の投函等職員が行う場合もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間やトイレ等掃除や除菌を行ない季節に合わせ加湿器や扇風機を設置して気持ち良く過ごして頂けるように工夫している。また、室内の換気や季節に合わせた飾り付け等も行っている。	リビングに大きな窓があり、採光が良く、明るく、温湿度も適切に保たれており、利用者が心地よく過ごせるようになっている。また、季節に合わせた飾り付け等もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	季節の花を飾ったり、俳句・習字等の作品を飾っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真を部屋に置き、ご本人が居心地良く過ごせるよう配慮している。	居室にベッドやクローゼット、洗面台が備え付けられており、また本人の使い慣れた家具や馴染みのあるものを持参し、本人が快適に過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの周りに物を置かないよう配慮しトイレにわかりやすいよう表示している。		